12
December 2012
第704号
平成24年12月1日発行
（毎月1日発行）

［広報］

さめがわ

Public Relations SAMEGAWA

［特集］

地域を見つめる。



集落のシンボル「落合の大もみじ」（西山）



［特集］

地域を見つめる。

あなたにとって「地域」とは・・・。
生まれてから今日まで暮らしてきた心落ち着く場所。
これからの生活の拠点として選んだ土地。
活動のフィールドとして生かされている里山。
もっと地域をよくしたいと考えている住民。
美しい景観を守ろうと活動している人々。
いろんな人たちがいて、地域がある。
今、改めて「地域」を見つめてみよう。



第３回（平成 23 年度）鮫川村フォトコンテスト「特選」受賞作品
「秋の移り変わり」（中川秀男さん・いわき市在住）

●CONTENTS

●第１部（4～7ページ）
地域を見つめて、地域をつくる。
春りんどうの会
落合里づくり協議会
中沢めん羊の里づくり組合

●第２部（8～11ページ）
地域を見つめるヒントを探る。
栗原勇三さん・幸子さん（渡瀬字中山在住）
青田照子さん（東京都北区・健康づくり栄養グループ「食彩」代表）
入江彰昭さん（東京農業大学短期大学部環境緑地学科准教授）

●第３部（12～13ページ）
地域を見つめて、地域を撮る。
第４回鮫川村フォトコンテスト入賞作品紹介


落合川

●第1部 地域を見つめて、地域をつくる。

第３次鮫川村振興計画（平成17～26年度）では、
「元気づくりモデル地区」を募集し、
地域づくりに意欲のある集落が自ら知恵を出し合い、
集落の未来予想図ともいえる「地区計画」を策定した。
改めて地域を見つめ、集落のこれからを考える機会となった。
今回は、その中から３つの集落を紹介する。

柿の実りは地域の実り
オーナーとの交流で元気な集落に
春りんどうの会（赤坂西野／荻ノ沢・塩倉集落）

地域のみんなが集まる場所を作りたい

荻ノ沢集落の六世帯と塩倉地区の二世帯が参加して地域づくりを行っている「春りんどうの会」（関根政雄会長）。平成十七年、「山の神」の席で、「地域のために何かをやろう」という話になり、柿の木を植樹することで話がまとまった。

「年々遊休農地が増え、このままではこの地域がなくなってしまう、何とかしなければと思っていました」と、初代会長を務めた関根成男さんは当時を振り返る。さらに続けて、「昔は花見や山の神の祭り、集会などで集まる機会がありました。しかし、今はそれぞれ仕事も違うし、そういう機会も少なくなりました。柿の木を植えようと考えたのは、地域のみんなが集まる場所を作りたいと思ったからです」

柿の木に着目したのは、荻ノ沢集落が昔から柿の栽培に適していたということ。また、加工などの可能性も考えてのことだった。

さらに、「柿の木のオーナー制度」を計画。対象は首都圏ではなく、福島県以北、特に北海道に目を向けた。「関東以南では、柿など珍しくないでしょうが、北海道では柿がならないんです。北海道の知人に柿を送ったら、とても感謝されたこともあり、知人などの口コミでオーナーを募集することにしました」と現会長を務める関根政雄さんは話す。

オーナーは一口につき一本の柿の木を所有。十一月下旬には「里山の収穫祭」と称し、柿の収穫を兼ねてオーナーを集落に招待する。収穫祭では、柿の渋抜きや追肥、せん定などの管理作業を行うほか、昼食には郷土料理を味わいながら地元住民との交流を図る。現在は北海道をはじめ県内外の四十五人がオーナーとなっている。



身の丈に合った規模で地道に活動を

会に対する村などからの補助金はない。柿の木の手入れに必要な薬剤や資材の経費など、活動していく上で資金面の問題がある。

「活動を長続きさせるためには、補助金に頼らず身の丈に合った規模で地道に活動していかなければならないと思います。新たな収益事業を始める必要もあります」と関根会長は話す。

さらに、「若い人たちと活動を共有して、引き継いでいかなければいけません。木は生き続けていきますし、オーナーさんたちも交流を楽しみにしています。より一層、地域の絆を深めていきたいです」と話してくれた。







1 柿の木のオーナーは、北は北海道から南は神奈川県まで。中には歌手の長渕剛さんの名前もある／**2** オーナーを招待して毎年秋に開かれる「里山の収穫祭」／**3**「春りんどうの会」の会員の皆さん

里づくりの基礎は地域の絆
交流事業で集落に元気を呼び込む
落合里づくり協議会（西山／落合集落）

集落のシンボル「落合の大もみじ」

「大もみじは集落のシンボル。落合の誇りです」と話すのは、落合里づくり協議会の会長を務める本郷弘義さん。紅葉の時期になると、村外からも紅葉狩りに訪れる人がいる紅葉の名所となっている。毎年十一月には、色づいた「大もみじ」の下で集落の子どもから高齢者まで集まり、「もみじ祭り」が開かれる。

協議会は、平成十七年に集落での話し合いが始まり、平成十八年六月に設立。落合集落の全世帯が加入し、全住民がメンバーとなっている。現在は、大学生などの体験活動の受け入れ、研修や勉強会への参加、「大もみじ」周辺の景観維持管理などが主な活動となっている。

女性メンバーの活躍が不可欠

体験活動の受け入れには、女性メンバーの活躍が不可欠だという。落合集落には、協議会の設立以前から女性たちで構成する「ひまわり会」がある。ひまわり会は、結成から今年で三十年余り。一年ごとに役員を持ち回りで務め、農繁期を除いた時期に旅行や忘年会を行い、女性同士の親ぼくを深めている。

「集落内の交流が盛んだから、みんな同じ気持ちで取り組むことができているんだと思います。まとまりがなければ、受け入れもできないですから」と女性メンバーの一人、我妻久子さんは話す。

「女性だけでなく、若い人たちもまとまりがあるんですよ。代々、落合の人たちは、そういうつながりがあるんです」

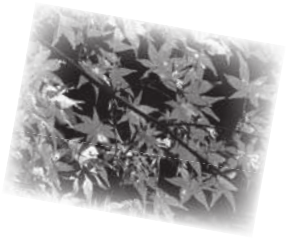
この地域の絆の強さが活動の基礎となっているようだ。







1　集会所に集まり活動について話し合う会員の皆さん／**2**　集落のシンボル「大もみじ」を眺めながら親ぼくを深める「もみじ祭り」／**3**　体験活動の受け入れで集落は活気づく



収益よりも交流を大切にしたい

協議会のメンバーが口をそろえて話すのは、受け入れによって収益を得ることより、交流を大切にしたいという思いが強いということ。地域内の交流は盛んであるものの、集落の人口が減少していることは事実で、村外から訪れる人たちとの交流は貴重だ。その交流によって、集落は活気づくのだという。

「外から人がやって来るから、景観を守ろうという気持ちにもつながっていると思います。これからも無理をせず、できる範囲で受け入れを行っていきたいです。そして、みんなで協力し合いながら活動していくことによって、さらに集落の絆を強めていきたいです」と本郷会長は話してくれた。

「めん羊」で景観保全と地域循環型農業の確立を目指して

中沢めん羊の里づくり組合（富田／中沢集落）

農業を核に集落に活気を取り戻す

富田字中沢集落で地域づくりを行っている「中沢めん羊の里づくり組合」（円谷次男組合長）。現在は、集落内の六世帯が参加している。

きっかけとなったのは、集落の長老から「昔盛んだっためん羊で集落の活気を取り戻してはどうか」との提案があったことだ。めん羊は過去に多くの家庭で飼育していた経験があることや遊休農地の活用ができるなどの理由があった。

平成十七年度から「めん羊の里づくり」を始めて以降、先進地視察研修、集落内での協議、めん羊飼養管理研修会を繰り返してきた。平成十八年には待望のめん羊二頭を導入し、現在では二十頭ほどに増えた。「めん羊もなつくと寄ってくるし、鳴いて答えるようになるんです」と話す円谷組合長の目はとても優しい。愛情を注いで飼育していることが伝わってきた。

平成二十一年からは、子めん羊の出荷が始まった。組合では、一般に市場に出回っているラム肉ではなく、希少な「ミルクラム」に着目。「高原の鮫川うまいもの祭り」で販売される中沢産生ラム肉はあっという間に完売し、一度食べたら忘れられないとリピーターも多いという。

めん羊の放牧により耕作放棄地は減少。エサとなる草はできる限り地域内で自給することとし、ふん尿は堆肥に変え農地に還元するなど地域循環型農業が確立された。そして、平成二十二年、農業を核とした地域づくりの取り組みが高く評価され、豊かなむらづくり顕彰で農林水産大臣賞を受賞した。







1 今年４月に「めん羊ふれあい体験」を初めて企画し、幼稚園児を招き交流した／**2** 作業は共同で行い、作業の合間には各家庭から持ち寄った料理を囲むことが多い／**3** ６世帯が里づくりに参加し、集落の活性化を図っている

地域づくりが明るい兆しとなれば

現在は、昨年の原子力発電所事故の影響から放牧ができず、刈った草をエサとして与えることができない状況だという。しかし、これに負けてはいられないと、全天候型ハウスでの飼育や分散型肥育など新たな構想を練っている。

最終的には「集落の調和・絆」が目標と話す円谷組合長。

「将来、後継者不足でさびれてしまうのではないかという心配があります。しかし、何か一つでも明るい兆しが見えれば変わると思うんです。この地域づくりが若い組合員や子どもたちにつながっていってほしいです」と話してくれた。



過去の「鮫川村フォトコンテスト」入賞作品から

皆さんは、どのようなところに地域の良さ、
鮫川村の良さを感じるだろうか。
人それぞれに、いろいろな感じ方があるはず。
ここでは、鮫川村に特別な思いを持つ方々に話を伺った。
そこに、地域を見つめるためのヒントが
隠れているかもしれない。





●第2部 地域を見つめるヒントを探る。





念願かない二地域居住。四季の移り変わりを楽しんでいます。

栗原勇三さん・幸子さん　くりはら・ゆうぞう／さちこ
渡瀬字中山在住


家庭菜園で野菜作りを楽しんでいる栗原さん夫妻


「田んぼのオーナー」の皆さんと一緒に

平成23年6月 新たなスタート

いつかは農山村に住みたいという思いを持ち続けていたと話すのは、栗原勇三さん・幸子さん夫妻。現在、東京と鮫川村の二地域居住を実践している。

初めて鮫川村を訪れたのは十五年以上前で、勇三さんは当時、東京都目黒区の職員だった。古殿町の知り合いから「鮫川村はユニークな村づくりをしている」という話を聞き、それから年に数回、鮫川村を訪れ交流を深めていった。

「農家の人が野菜などを持ってきてくれて、一緒に鮫川村を訪れた人も喜んでいました」と、そのときの印象を話してくれた。

そして、二地域居住を始めるきっかけとなったのが、平成二十一年から渡瀬地区で始まった「田んぼのオーナー制度」の受け入れを村から依頼されたことだった。当初は年に三回の活動のたびに、東京から鮫川村に訪れていた。

「田んぼのオーナーをやっているうちに、鮫川村に住んだ方がいいかなと思うようになりました。実際に住んでみないと、村の実感が分からないと思ったんです」

そして、平成二十三年六月、念願かなって渡瀬地区に住み始めることになった。空き家を探す際に、「住むなら渡瀬地区で」という思いが強かったという。

「渡瀬で米づくりをしていましたし、活動を通して地域の方たちとの交流があったので、スタートするなら渡瀬地区と決めていました。いきなり知らない人ばかりでは不安もありましたから」

人と人とのつながりに感謝

一年目は、冬の厳しい寒さなどに戸惑うことも多かったという二人。しかし、今では四季の移り変わりを楽しんでいるという。さらに鮫川村の良さを聞いてみた。

「まず、高齢者が元気。自分のためにも他人のためにもやることがたくさんあって、六十代はまだまだ若いと感じます。あとは、澄んだ空気と空の青さが都会とは違います」

すべてが新鮮に感じられ、また、地域に見守られていると強く感じるという。

「花がきれいに咲いたね―など、地域の方々が声をかけてくれます。私たちのことを気にかけて、見てくれているんだなと思います。それがうっとおしいと思う人もいるかもしれませんが、私たちにはそれがうれしいんです。人と人とのつながりに感謝しています」と、二人は顔を見合せながら話してくれた。

自分が育てた作物が体と心に栄養を与えていることに誇りを

青田照子さん　あおた・てるこ
東京都北区・健康づくり栄養グループ「食彩」代表

窓から空が見えることに感動

東京都北区で、食を通した健康づくりを目的に活動している健康づくり栄養グループ「食彩」。その代表を務めるのが青田照子さんだ。主に、高齢者の健康づくりや交流機会の提供などを目的とした「高齢者ふれあい食事会」や食への関心と理解を深めるための催しなど、非常に精力的、広域的に活動している。

青田さんが初めて鮫川村を訪れたのは平成二十一年の秋。そのときの印象を、「空気が都会とまったく違うし、窓から空が見えることに感動しました。鮫川村の自然に触れて活力をもらえました」と話す。また、「村の人たちが丹精込めて育てた作物には、その思いが入っています。これは自然が育んだ安心して食べられるものです。それらが並ぶ『手まめ館』(村直売所)には、東京からでも買いに来たいと思う物がたくさんあります」と続けた。

素朴な料理が都会の人には魅力的

今年六月、グループの仲間と鮫川村を訪れたいという以前からの思いが、「農村体験ホタルツアー」という形で実現した。約五十人が参加し、鮫川村の食文化などに触れた。


農村体験ホタルツアーで鮫川村を訪れ、地粉を使ったうどん打ちを体験した

また、十一月二十四日に村公民館で開催した「鮫川の郷土料理を楽しむ会」にも参加。そこでは、郷土料理の定番とも言える「きんぴらごぼう」や「白あえ」がとても新鮮だったと話す。

「素朴な料理に対して、特に魅力を感じました。そう菜商品として販売してもよいと思えるくらいおいしい料理ばかりでした。この味を北区にも伝えたいものです」

村民には日常的なことでも、都会の人たちにとってはとても魅力的なものに映るのだという。

「村の人たちは、こんなにもおいしいものを食べていることを当たり前と思わず、そのものによって命が永らえていることに気付いてほしいです。また、自分が育てた作物が体と心に栄養を与えていることに誇りを持ってほしいです」と話してくれた。

このように、鮫川村の食に対して強い関心を寄せている青田さん。農作物のほかにも、村内産大豆で作った豆腐をはじめ魅力的な商品がたくさんあるという。

「これから、鮫川村と北区のパイプ役になって、正しい食を伝え、広めていきたいです」と、最後に力強く話してくれた。



中央が青田さん。食彩のメンバーと一緒に「鮫川の郷土料理を楽しむ会」に参加し、村の食材をふんだんに使った料理を味わった

十二年前から鮫川村と交流があり、現在も年に数回、村内で学生の実習や景観保全活動を行っている、東京農業大学の入江彰昭准教授に話を伺った。

里山の景観が荒れていくことに危機感

初めて鮫川村を訪れたのは平成十二年の冬、「ふるさと体験バスツアー」への参加がきっかけでした。そのときの鮫川村の第一印象は、景観が美しいということ。谷戸に囲まれた中に田んぼが広がっている景色が特徴的で、とても印象に残りました。また、小じゃがのみそ炒めや刺し身こんにゃく、かぼちゃなどの郷土料理のおいしさにも魅力を感じました。また、鮫川村が抱えている耕作放棄地の増加などの課題を知り、里山の景観が荒れていくことに危機感を覚え、また学生と来ようということになりました。

そして、リピーターとして訪れるようになったのは、景観や食の魅力以上に、鮫川村の人の魅力がありました。村の職員や「ほっとはうす」のお母さんたち、温かく受け入れてくれた地元の皆さん。来たときには「よく来たね」。そして、帰るときには「また来てね」と手を振って見送ってくれました。

教育の場としての鮫川村というフィールド

学生にとって鮫川村での活動のような現場体験は、最初の動機づけをさせるための教育として非常に大切だと考えています。

少なからず地域は何らかの課題を抱えています。学生たちには、現場体験をしながら考え、自分なりの課題解決の答えを導き出してほしいと思っています。考えるきっかけを鮫川村というフィールドを通して与えたいのです。さらに、学生自身が自分の地元と鮫川村での経験を結びつけてほしいです。自分のふるさとでもこれらの経験を生かして、自分なりの答えを見つけてくれればと思います。


鮫川村の魅力について話す入江准教授

キーワードは「里山」。美しい景観は、鮫川村の財産です。

入江彰昭さん　いりえ・てるあき
東京農業大学短期大学部環境緑地学科准教授

美しい食・人・景観それが村の財産

鮫川村の美しい景観をさらに磨いていってほしいです。村内では、ゴミ拾いや草刈りなどが行われていますが、このように地域の人が努力することによって地域の美しさは磨かれていきます。「里山」を一つのキーワードとして、美しい村づくりを進めていってほしいです。

人は美しい物にひかれます。人を動かすためには、「美しい食・人・景観」をさらに磨いていくことが必要だと考えます。そうすることで交流人口も増えていくと思います。村の人たちがそれを鮫川村の財産だと理解し、さらに積極的に努力していくことで、美しさが保たれていくのではないでしょうか。［談］


舘山公園内のビオトープを整備する東京農大の学生



特選（鮫川村長賞）

鹿角平天体ショー
佐川敬三さん（いわき市）

はせ掛け
佐渡谷ミチ子さん
（いわき市）

準特選
（福島民友新聞社賞）



青空高く
柏舘　健さん
（いわき市）

準特選
（福島民報社賞）



●第３部

地域を見つめて、地域を撮る。

第４回鮫川村フォトコンテスト入賞作品紹介

第４回鮫川村フォトコンテストの審査会は11月15日、役場正庁で開催した。

「鮫川村の四季を感じる風景」をテーマとし、村内外から46人、103点の応募があった。

加藤明県写真連盟副会長を審査委員長に３人が審査した結果、佐川敬三さん（いわき市）の「鹿角平天体ショー」が特選に輝いた。

入賞作品は、鮫川村ふるさとの四季カレンダーや観光パンフレットなどに活用する。

入選



畔の白い花
遠藤十一さん（白河市）



蝶々の来る滝
芳賀伊津子さん（渡瀬）



春の色の森
芳賀育実さん（東京都墨田区）



秋の農作業
千原武和さん（郡山市）



ひまわりといっしょ
吉川武彦さん（青生野）



丘に咲く
田子保浩さん（いわき市）



福寿草の郷
藁谷六朗さん（浅川町）



さぎり荘のぬくもり
入江彰昭さん（東京都世田谷区）



孟冬
高橋順一さん（いわき市）

佳作



晩秋の里山
折笠　一さん（いわき市）



大空へ！
熊田行雄さん（鏡石町）



大豆収穫
関根　正さん（西山）



里山に 一夜かぎりの 華絵巻
須藤　好さん（赤坂西野）



収穫日
長谷川錦治さん（いわき市）

生田目凌雅さん



なまため・りょうが●県立修明高等学校鮫川校１年。今年９月に行われた生徒会役員の改選に伴い生徒会長に就任。西山字辺栗在住。

私は鮫川校に入学して、学んだことがたくさんあります。鮫川校は人数こそ少ないものの、学校生活では生徒一人ひとりが毎日一所懸命に勉強や部活動に励んでいます。学習面では各教科の基礎をしっかりと学び、教科担当の先生方も生徒と一対一で丁寧に勉強を教えてくれます。この指導方法は鮫川校のような小さな学校だからこそできることだと私は思っています。部活動では野球部が東北大会出場という優秀な成績を残しました。そして、今年は東北大会で初勝利をあげることができた年でもあります。しかし、創部二十九年目を迎える野球部も現在の部員数は少なく、五人しか在籍していません。そのため、先日の新人戦では他の部から人を借りて何とか大会に出場しました。鮫川校は、どの部活動にも力を入れて取り組んでいますが、その中でも力を入れているのが野球部なのです。今では野球部が鮫川校の顔として、地域の方々や他の高校にも知られています。

さて、このように野球部は人数不足で存続の危機にありますが、野球部と同様に存続の危機にあるのが学校そのものです。私が生徒会長に立候補した理由も、学校が存続の危機にあるからです。私は鮫川校に入学し、まだ半年しかたっていません。しかし私はこの短い期間に学校の良さをたくさん知ることができました。

そして数多くの思い出もできました。この鮫川校には、在籍中の生徒、さらには卒業していった先輩方の思い出がたくさん詰まっていると思います。私が高校で過ごした時間はわずか半年です。しかし、卒業していった先輩方は私が過ごした時間の何倍もの時間を過ごされました。忘れられない思い出、かけがえのない思い出もたくさんあると思います。私はそのような思い出が詰まった学校を守りたいのです。人数が少ないという理由だけで大切な場所を失いたくないのです。

私は学校を皆さんの記憶でもなく思い出でもなく形として残していきたいのです。誰かの思い出に残ることもよいことだと思います。しかし私は、学校を誰かの

学校を未来の形あるものとして残していきたいです。そのために行動していきます。

修明高等学校鮫川校　存続の危機３

鮫川校に寄せる思い

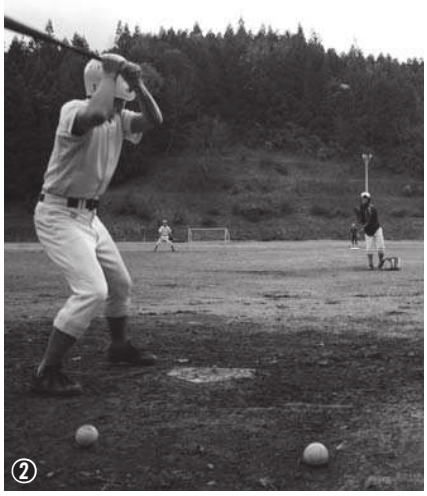
Part 2 在校生の主張

「広報さめがわ」11月号では、鮫川校と関わりのある３人に
鮫川校に寄せる思いを話していただきました。
今月号では、実際に鮫川校に通っている生徒の思いを紹介します。
11月３日に行われた村少年主張大会で修明高校鮫川校の生田目凌雅さんが
「生徒会長になって思うこと」と題して鮫川校への思いを発表しました。
※原文のまま掲載

思い出ではなく、未来の形ある物としても残していきたいのです。まだまとまってはいませんが、存続のための案を生徒全員でいろいろと出し合い、実行していきます。そして私たちの行動が鮫川校の存続につながるものと信じています。

最後になりますが、私は今の鮫川校も大事に思っています。今年は予算の関係で行事がいくつか減ってしまいました。しかし私は予算がなくとも学校を盛り上げることはできると思っています。私は学校をもっと盛り上げるため行事を工夫し、学校全体を明るくしたいと考えます。また、鮫川校をもっと地域の方に身近に感じていただくため地域交流も増やしていきます。今の学校、そしてこれからの学校のためにも、生徒同士が団結し毎日を大切に生活していけるよう努力していきます。


①


②


③

❶特色ある学校づくりの一環として行っている大豆栽培。昔ながらの方法で、棒で叩いて大豆を脱粒する生徒たち／❷鮫川校の顔として活躍する軟式野球部。部員が少ないながらも日々練習に励む／❸歴代野球部が獲得したトロフィーや盾の数々

平成25年度 幼稚園・保育園入園児を募集します

平成25年4月から鮫川幼稚園・保育園に入園を希望する児童の申し込みを受け付けます。

幼稚園・保育園の概要

所在地　赤坂西野字酒垂3番地3（こどもセンター内）
定員　幼稚園60名／保育園120名
開園時間　幼稚園…午前8時～午後3時30分／保育園…午前7時～午後6時30分

幼稚園

入園基準　平成19年4月2日から平成20年4月1日までに生まれ、村内に居住していること
必要書類　①入園志願書（こどもセンターまたは村教育委員会にあります）／②お子さんの住民票抄本
申し込み先　こどもセンターまたは村教育委員会　※鮫川保育園に就園している対象児童には園児を通じて書類を配布します。
その他　幼稚園では、園児の預かり保育も行いますので、希望される方は申し込んでください。
問　さめがわこどもセンター☎29-1010または村教育委員会☎49-3151



申込期限　12月14日㈮

保育園

対象児童　乳児（6カ月以上）から4歳児まで
入園基準　児童の保護者が次のいずれかに該当し、家庭内で保育できない場合
①日中に家庭外で仕事をしている
②日中に家庭内で家事以外の仕事をしている
③父親あるいは母親のいずれかがいない
④母親が出産または父親あるいは母親のいずれかが病人や障がい者など
⑤病人や障がい者などの看護をしている
⑥家庭が災害にあった
必要書類　①保育園入園申込書（こどもセンターまたは役場住民福祉課にあります）／②両親の就労状況を証明する書類（勤務・内職をしている場合は事業所の勤務証明書。自営業・農業などの場合は地区民生委員の証明。※用紙は、住民福祉課またはこどもセンターにあります）
申し込み先　こどもセンターまたは役場住民福祉課
その他　平成24年度から引き続き入園を希望する児童については、申込書の提出は必要ありませんが、両親の就労状況を確認するため、該当者へは別に通知します。
問　さめがわこどもセンター☎29-1010または村住民福祉課福祉係☎49-3113

認知症予防のための
「脳いきいき教室」受講者募集

脳いきいき教室は、ウォーキングを通じて、認知症の危険因子を減らし、認知症予防を図るプログラムです。

認知症にならないためには、認知症になりかけのときに低下することの多い、脳の機能を高めていくことが有効な方法です。そのため、この教室は単に歩くだけではなく、脳の使い方を学びながら実践していく有酸素運動と知的活動の習慣化を目指す教室です。

また、参加者や教室運営を支援するファシリテーターが参加者の意欲や目標に合わせて、後方支援をします。

実施期間　12月７日(金)～平成25年２月22日(金)

場所　村保健センター

実施内容　①１グループ５～６人で毎週金曜日(全11回実施予定)／②ウォーキングプログラム（認知症の発症を遅らせるためのプログラムです）／③教室の最初と最後に「脳いきいき度検査」を行います。

参加資格　次の要件を満たす方…①65歳以上おおむね70歳までの方／②認知症予防のためにウォーキングをやってみたいと思っている方／③ウォーキングの習慣がない方／④早足で歩こうと思えば歩ける方／⑤早足で歩くことに医学的に問題のない方／⑥自分で参加できる方（送迎はありません）

申し込み　12月３日(月)までに役場住民福祉課福祉係へ電話で申し込んでください。

問　村住民福祉課福祉係☎49-3113

農産物等放射性物質測定結果

村内で栽培・採取された農産物等の放射性セシウム測定結果を公表します。結果はあくまでも参考値ですので、目安としてください。

また、村では現在も放射能の測定を継続しています。ぜひ、ご利用ください。

【注釈】
①放射性セシウムは134と137の合算値です。
②「不検出」は「検出限界値未満」を表示しています。
③空欄は測定実績がありませんでした。
④同じ地区で複数ある場合は、最大値と最小値を表示しています。

■問い合わせ
村農林課☎49-3114

10月12日～11月13日検査　　放射性セシウム[ベクレル/kg]

検査試料	赤坂西野	西　山	赤坂中野	東　石	富　田	渡　瀬	青生野
なめこ(栽培)	93～475	195	35～208	88		110	361～637
原木シイタケ	162	87	31～120	31			
玉ねぎ	不検出						
ネギ					不検出	不検出	
サツマイモ				不検出	不検出		
サトイモ	不検出				不検出		
いもがら					不検出		
かぼちゃ	不検出～9			不検出			
大根	不検出			不検出	不検出	不検出	
白菜	不検出			不検出	不検出	不検出	
ホウレンソウ			不検出				
小松菜			不検出				
セロリ					不検出		
ニラ					不検出		
クレソン	不検出						
トロイモ	不検出					不検出	
食用キク						不検出	
トウガン	4						
こんにゃく				不検出			
玄米	不検出	不検出～4					不検出
そば(粉含む)	不検出		不検出	不検出			
じゅうねん				不検出～6		不検出	
イノシシ	95～467	34		117～1068		91	31～1335
柿	不検出～8						
キウイ	12						

自分の命、他人の命を大切に
村内の小学校で「いのちの教育授業」



胎児の模型を使って成長過程を実感

生きていることの尊さなどを学ぶ「いのちの教育授業」は11月、村内２つの小学校で行われました。授業では、胎児の成長や生まれる過程を学び、実際に模型を使って体験。生命誕生の尊さを理解し、自分の命や他人の命を大切に思う心を養いました。

西山Ａが熱戦制す
第６回村長杯争奪ゲートボール大会



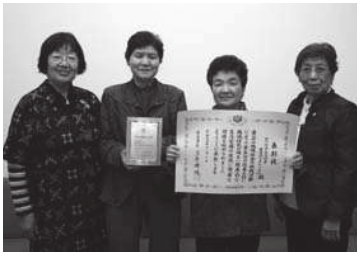
熱戦を制した西山Ａ

村ゲートボール協会主催の「第６回鮫川村長杯争奪ゲートボール大会」は10月12日、さぎり荘ゲートボール場で行われました。

大会には、７地区の老人クラブから13チームが出場。白熱した試合が繰り広げられた結果、西山Ａが初優勝を果たしました。

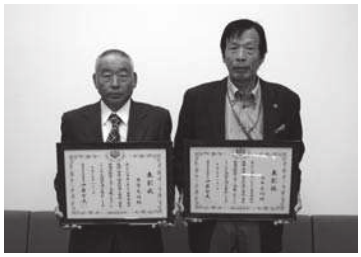
栄えある受賞

村食生活改善推進員「ひまわりの会」が「厚生労働大臣表彰」を受賞



食生活改善による住民の健康増進のための積極的な活動が認められ、村食生活改善推進員「ひまわりの会」（矢吹さつき会長）が栄養関係功労団体として厚生労働大臣表彰を受賞しました。

高木正則さん、芳賀元治さんが「環境省自然環境局長表彰」を受賞



自然歩道の維持管理、普及啓発活動に尽力した功績が認められ、高木正則さん（新宿・写真右）、芳賀元治さん（江竜田・写真左）が自然歩道関係功労者として環境省自然環境局長表彰を受賞しました。

ふくしまキッズ実行委員会が「オーライ！ニッポン審査委員会長賞」を受賞



都市と農山漁村の交流を盛んにする活動に積極的に取り組んでいる団体として、ふくしまキッズ実行委員会（進士徹実行委員長）が「オーライ！ニッポン審査委員会長賞」を受賞しました。

村政TOPICS

人権

12月4日～10日は「人権週間」です



啓発活動を行う人権擁護委員

十二月四日から十日までの七日間は「人権週間」です。今年で六十四回を数える人権週間では、「みんなで築こう人権の世紀～考えよう相手の気持ち 育てよう思いやりの心～」を啓発活動の重点目標として実施されます。

十一月三日、人権週間に先立ち、村人権擁護委員の皆さんが人権思想の普及と意識の高揚を図るため啓発活動を行いました。

●特設相談所を開設します

十二月六日午前十時から午後三時まで、村公民館に特設相談所を開設します。

相談は無料で、秘密は固く守られます。人権に関する困りごとや悩みごとなどがありましたら、気軽にご相談ください。

ほっとニュース





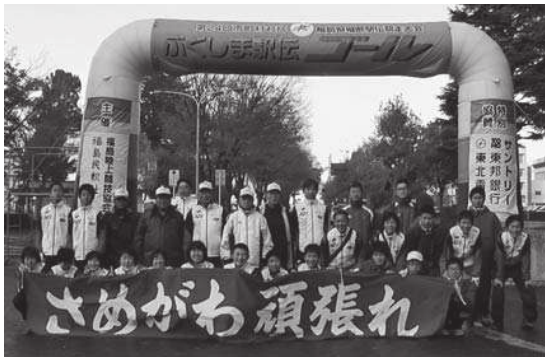
上…鮫川小「キラキラ１年生」
右…青生野小「全校合唱」

学習の成果を披露
２つの小学校で学習発表会

鮫川小の学習発表会「さめっ子フェスティバル」、青生野小の学習発表会は10月27日、各小学校の体育館で行われ、子どもたちが日ごろの学習の成果を披露しました。

鮫川小では、合唱部の発表や身振り手振りを交えた詩の朗読、よさこい踊り、創作劇など学年ごとに趣向を凝らした演技を披露。また、青生野小では、狂言や音楽劇、青生野太鼓の演奏、会場が一つになっての合唱などを元気に発表し、会場に詰めかけた家族らから、大きな拍手が送られていました。

村の誇りを胸にタスキをつなぐ
第24回ふくしま駅伝



昨年以上の走りを見せた鮫川村チーム

第24回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会（ふくしま駅伝）は11月18日、白河総合運動公園から福島県庁までの96.5㌔のコースで行われました。各選手が懸命にタスキをつなぎ、昨年を上回る総合27位（村の部６位）となり、３年連続で敢闘賞を獲得しました。

思いを言葉と歌にのせて
少年主張大会・音楽発表会



堂々と意見を発表した主張大会

第17回少年主張大会、第11回音楽発表会は11月３日、村公民館で行われました。

主張大会では、小・中学生、高校生が日ごろ考えていることや訴えたいことを堂々と発表。音楽発表会では、小・中学生とコーラスグループが美しい歌声を披露しました。

村政TOPICS

消防

万が一に備えて 火災防御訓練を実施



放水訓練を行う消防団員

秋季全国火災予防運動期間中の十一月十一日、火災防御訓練が富田字中沢地内の中沢公民館付近で行われました。

「走行中の車両からタバコが投げ捨てられ出火。山林に延焼拡大し、近隣の民家に火勢が迫っている」との想定で、棚倉消防署鮫川分署と村消防団により、通報から出動、放水などの消火訓練が繰り広げられました。消防団員らは、万が一に備えて機敏な動作で訓練に臨んでいました。

また、訓練終了後には棚倉消防署鮫川分署員の指導で、地元住民を対象とした「消火器を使った消火訓練」を実施。火災発生時の初期消火の重要性を再確認しました。

村民【随想】リレー ―― 173

長井千恵子さん

義母をみとって

CHIEKO NAGAI



ながい・ちえこ●昭和40年12月生まれ。赤坂中野字宿ノ入在住。鮫川村社会福祉協議会・ひだまり荘勤務。趣味は読書。美容と健康を心掛けている。

義母をみとってはや半年が過ぎます。在宅で義母を介護していくには、いろいろな方々の手助けがありました。訪問介護や訪問看護、訪問入浴、療養型短期入所施設、そして、忘れてはいけない「耳の会」の傾聴ボランティアさん、ふるさと事業の方など。いろいろな人に助けをいただき、最後まで義母を在宅で介護することができました。この紙面をお借りしまして、御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

義母の介護にもうひとつ癒やしとなったのが、我が家で飼っているダルメシアンです。オスの大型犬で、名前は「ミルク」といいます。人懐こく、義母ととても仲良しでした。朝、ミルクを家の中に入れると真っ先に行くのが義母の部屋でした。ミルクが義母にまとわりつきながら、義母のおしゃべりに付き合っているのが日課となっていました。心のどこかでつながっていたのでしょうか。

義母が亡くなった今でも遺影をじっと見ているミルクの姿を見ると、今でも続く二人の関係にやきもちをやきながら、うらやましく思うこのごろです。

■

次は、関根順子さん（西山字余所内）にバトンタッチ！

俳句

震災や一年九月うめもどき　中井　恒峯
ご無沙汰で始る便り冬間近　山本　恵子
ねころんでみたいな群青空の下　斎須　信子
寄せ来る秋の曇天不幸波　黒田　寿香
白河に杏子歓迎十三夜　土　竜庵
押しかけて蔓延って背高泡立草　鈴木　米子
秋深し廊下の奥に陽が射して　松本　精一
肩も触れ話が弾むりんご風呂　前田　縫子
小鳥たち寒さのり越え春を待つ　小松ハル工
こぼれ大豆鳩が大方整理する　北條素人坂
被災二年目紋付鳥の来し安堵　山本五十鈴

短歌

広大な芝生が匂う三内丸山遺跡に学童らの歓声弥す　鈴木イミ子
雪見なる障子を開けて見るばかり年明けにして降り積もる雪を　前田　初
母親になりし孫なり素晴らしい子を育てよと心に願う　佐藤　春枝
自然なる眺めに沿えて造るという庭にある石は山を想わす　須藤　幸子
人生の門出は常にやってくる例え中年を過ぎたる今も　水野　珠子
紅葉に吹く風強し今少し散らさぬようにと心に眺む　関根　瑞恵

さめがわを彩る集い6

苦しい思いをしたあとの眺めが最高



YAMA大好き苦楽部

本郷弘義会長／会員18名

YAMA大好き苦楽部は、公民館事業の登山教室に参加していた人たちの「登山教室は終わっても、登山を続けたい」という声がきっかけとなり、結成されました。今年で十年目となる今では、日帰りで登れる山はほとんど登り切ったと話します。

会には、五十歳代から七十歳代までが参加しており、和気あいあいとした雰囲気で、チームワークもいいと話します。お互いをサポートし合い、遅い人を気遣いながら登山を行います。

「苦楽部」という名前の通り、苦しい思いをして山を登り切ったあとの頂上からの美しい眺めは最高だと言います。また、野鳥の声を聞きながら、そこでしか見ることができない高山植物を観察しながらなど、大自然と触れ合うことができるのも楽しみの一つです。

Book

図書の缶詰

図書館からおすすめの本をご紹介
鮫川村図書館（村歴史民俗資料館内）
☎49-3106

先生のお庭番

（朝井まかて著、徳間書店）



植木屋の下働きだった15歳の熊吉がシーボルトの薬草園の園長を任されることに。西洋に日本の美しい草花を根付かせたいという先生のために奮闘する物語です。やがて起きる「シーボルト事件」熊吉から見た先生の真意とは…。

としょかんライオン

（ミシェル・ヌードセン著、岩崎書店）



だれでも入れる図書館には決まりがあります。いつも静かな図書館には大きなライオンがやってきました。お行儀の良いライオンはみんなと仲良しに。でもある日、決まりが守れなくなってしまいました。

第3土曜日は **家族一緒に読書の日**

冬野菜摘み来て供える仏前に緑は匂う芳しきまで　溝井　清乃
なまなかの覚悟ではなし熟年を生きるも日々に畑を耕す　坂本　伊紀
竹島を実効支配されても尚　何をしてるや日本の防衛は　一　平子
村祭り太鼓の音に浮かれしも今は侘しく心にひびく　石井　幸子
わが願え叶えてと打つゲートボール球は上がりと入賞なりぬ　須藤シツエ
基準値を越えた一袋発覚でよくぞ風評沈黙を得たり　松本　一郎
今年また見事に増えし山茸皮肉なものよ食べれないのに　前田喜三子
中秋の夕暮れ迫る山並みに浮びし鉄塔あかねに染まる　藤田千代子
老いたれど振り向かずして前向きに友と手をとり楽しさ求む　関根ハナヨ
全袋検査のすみて送り出す安心安全のシールを貼りて　関根　富久
夕空を流れゆく雲見上げつつ今日も事なく余生を送りぬ　鷲野谷　満
村挙げて祭りに賭けるバイクショー銀輪宙にと喚声の沸く　板橋　源良
出荷米みな一等になりましたよ遺影の夫のうなずく如し　関根キヌ子
ステックの絆で結ぶゲート場一球一打に勝敗の道　矢吹　一二
踏み締める朝露冷たく足に散る秋たけなわの畦道行けば　北條　平



着物で作った袖なしはんてんとネクタイで作ったバック。どれもリメイクとは思えません。

むらの
名人・達人
Vol. 5

裁縫名人
本郷キミエさん
ほんごう・きみえ／西山字落合在住／83歳

捨てる物は何もないよ リメイクすれば生まれ変わる

使わなくなった物を縫い直して、必要な物を何でも作ってしまう本郷キミエさん。古くなった着物はもんぺやはんてん、帯やネクタイはバックなど、リメイクしたとは思えないほど完成度の高い物ばかりです。

ただ何もしないでいるのが嫌だというキミエさん。十三年間、亡くなった旦那さんの介護をしていたときも、ベットの傍らで裁縫や編み物をしていました。現在は、野菜などを作りながら、手の運動も兼ねて続けているそうです。

外出したときやテレビを見ていてすてきだなと思う物があれば、買うのではく使わなくなったものを利用して見よう見まねで作ってしまいます。また、お孫さんや友人などに作ったはんてんなどをあげると、とても喜ばれています。頼まれて作ることもあり、自分が作ったものを喜んでくれるのがうれしいと言います。

「もったいない」と何度も口にするキミエさん。新しい物を買うことはほとんどなく、捨てる物は何もないと言います。小さい布でさえアイディアひとつでリメイクをして、人に喜ばれるものに変えてしまいます。



愛用のミシンは3台目。どんどん縫い進めていきます。

若者の広場　No.96

Young Plaza

渡邊 浩輔さん



わたなべ・こうすけ
平成３年７月12日生まれ　21歳
O型　かに座
趣味は車とドライブ
赤坂東野字蕨ノ草在住

「鮫川村らしさ」はなくさないで

■今、夢中になっていることは何ですか？

ＦＭＸ（フリースタイルモトクロス）を見に行くことです。「うまいもの祭り」や「モトパーク森」などに行きます。

■これから新たにやってみたいことや目標はありますか？

バイクの免許を取って、友達とツーリングや旅行に行ってみたいですね。

■村に住んでいて感じることや現在の村について思うことはありますか？

自分が小さかったころと比べるとイベントなどが増えて村が活気づいてきているなと思います。ただ、不便だと感じることはあまりありませんが、街灯が少ないので村が暗いと思うことがあります。

■これからの鮫川村に望むことはありますか？

若い人が気軽に集まれたり、村が盛り上がるような施設や店ができればいいなと思います。でも、自然豊かで緑が多いことや村民の優しい人柄、みんなが顔見知りといった「鮫川村らしさ」はなくさないでほしいですね。

■

次は芳賀俊光さん（赤坂東野字唐露在住）の予定です。

学校だより

（98）

鮫川小学校編

鮫川小、充実の秋！「学校へ行こう週間」

▼命の授業…五年生が塙厚生病院の助産師さんの指導により、命のはじまりと成長について学びました。

▼少年の主張・合唱部発表…村公民館で鈴木楓花さん（六年）、我妻美空さん（五年）による作文発表や県大会に出場した合唱部のすばらしい発表がありました。

▼五年生収穫祭…米作り体験活動のまとめとして、保護者の協力により餅つきを体験し、温かい豚汁やお餅をたくさん食べました。

▼サッカー教室…プロのサッカー選手たちが五・六年生を対象に、サッカーの楽しさや技術を教えてくれました。



サッカー教室

▼マラソン記録会・給食試食会…さわやかな秋晴れの下、これまでの練習の成果を発揮し、参加者全員見事完走しました。また、お昼は全国学校給食甲子園入賞メニューを、保護者の方々に各教室で試食していただき、大変好評でした。



マラソン記録会

マラソン記録会一位入賞者

【一年】男子／水野陽亮　女子／円谷結愛
【二年】男子／坂本大夢　女子／鈴木　結
【三年】男子／高野敦輝　女子／蛭田樹璃
【四年】男子／円井純一　女子／北條佑奈
【五年】男子／関根清也　女子／北條七海
【六年】男子／鈴木和之　女子／関根美可

（文・写真／鮫川小学校）

情報BOX

暮らしに役立つ身近な情報をピックアップ！

ⓘ案内

苦情解決第三者委員にご相談ください

村で運営する保育園、村高齢者福祉センターが提供しているサービスについて、意見・要望・苦情などがある場合、施設内に「苦情受付担当者」と「苦情解決責任者」を置いて苦情などを受け付けています。

また、村では、苦情などの適切な解決を図るため、齋藤實さん（赤坂西野字酒垂☎49-2253）と高杉タカ子さん（赤坂東野字大竹☎49-2430）の2名に「苦情解決第三者委員」をお願いしています。苦情解決第三者委員は、中立的な立場で相談に応じますので、気軽にご相談ください。

問 村住民福祉課福祉係☎49-3113

防災行政無線の戸別受信機等の更新

防災行政無線のデジタル化に伴い、現在使用している戸別受信機および屋外拡声子局の設備を更新します。

戸別受信機の更新 現在設置されている戸別受信機は、12月ごろから来年3月までの間に、全て更新します。屋外にアンテナが設置されている場合は、アンテナも同時に更新します。なお、工事の日程については、後日お知らせします。

屋外拡声子局設備の更新 屋外に設置している拡声子局のスピーカーや無線機などの設備も更新します。工事施工の際には、施設付近に施工業者が立ち入りますので、ご了承ください。

戸別受信機の新規設置の申し込み 戸別受信機が設置されていない住宅に、新たに戸別受信機を設置する場合は、申し込みが必要となります。設置を希望する方は、役場総務課にお問い合わせください。なお、設置完了後に分担金として5000円を納めていただきます。

その他 工事施工業者は日本電気株式会社（NEC）です。作業員は、身分証明書を携帯していますので、ご確認ください。

問 村総務課総務係☎49-3111

住宅の二重ローンでお困りの方へ

県では、東日本大震災で住宅に損害を受けた方の生活再建を支援するため、住宅の二重ローンに対する利子補給を行います。

被災の程度、債務残高や借入額など、補給を受けるためには条件があります。詳しくは県建築指導課にお問い合わせください。

問 県建築指導課☎024-521-8184

8日は歯の日

防災無線でむし歯予防を呼びかけます。

12月の担当は――

鮫川中学校
保健・給食委員会

藤田麻椰さん（写真左）
増子美咲さん（写真右）



■電話番号

鮫川村役場（代表・総務課）
☎ 0247-49-3111
FAX 0247-49-2651

住民福祉課	
健康係	49-3112
住民係・福祉係	49-3113
農林課	49-3114
企画調整課	49-3115
地域整備課	
建設係	49-3116
環境係	49-3196
農業委員会	49-3197
議会事務局	49-3198
出納室	49-3199

【その他の機関】

教育委員会	49-3151
図書館（歴史民俗資料館内）	49-3106
農業者トレーニングセンター	49-3295
学校給食センター	49-2113
こどもセンター（保育園・幼稚園）	29-1010
国保診療所	49-2028
ほっとはうす・さめがわ	48-2555
手・まめ・館	49-2556
山王の里	48-2848

■鮫川村公式ホームページ
http://www.vill.samegawa.fukushima.jp/

■今月の納税
村県民税：第4期
国民健康保険税：第7期
介護保険料：第7期
後期高齢者医療保険料：第5期
※納期限：12月25日（火）

information

離職によって住宅にお困りの方への支援

離職などにより、住宅などにお困りの方のための支援を行っています。支援を希望する方は、ハローワークへの求職申し込みが必要になります。

住宅手当　離職者であって住居を喪失または喪失する恐れのある方に対する賃貸住宅の家賃のための給付

総合支援資金融資　失業などにより日常生活全般に困難を抱えている方に対する住宅入居費などの資金の貸し付け

職業訓練受講給付金　ハローワークの無料の職業訓練を受講する方に対する、訓練期間中の生活費などの給付

臨時特例つなぎ資金貸付　離職に伴い住宅を失い、公的な給付・貸し付けを申請し、交付までの間に生活費に困窮している方への生活費の貸し付け

問　ハローワーク白河☎０２４８-２４-１２５６

年金

国民年金の保険料等について

保険料額　月額1万4980円（平成24年度）※保険料は加入した月から納付が必要です。加入日が月初めでも月末でも、1カ月分の保険料を納めてください。／付加保険料（月額400円）を加算して納付すると、老齢基礎年金に付加年金が上乗せされます。希望される方は、役場住民福祉課または年金事務所へお問い合わせください。

納付期限　▼納めようとする月の翌月末まで▼納付期限を過ぎた場合でも、平成24年10月1日から平成27年9月末日までの3年間に限り、過去10年間分を納付することができます。

納付方法　①金融機関、郵便局、指定のコンビニエンスストアの窓口納付／②口座振替／③その他の納付方法については、白河年金事務所で手続きできます。

問　村住民福祉課住民係☎49-3113／白河年金事務所☎0248-24-1256

統計

工業統計調査にご協力ください

経済産業省では、12月31日現在で、工業統計調査を実施します。

この調査は、製造業を営む事業所を対象に、その活動状況を明らかにすることを目的として明治42年に開始されました。

調査結果は、国や県、市町村の行政施策の基礎資料として活用されるとともに、教材などとして広く利用されています。

調査の実施にあたっては、12月下旬から調査員が事業所などに伺いますので、ご協力をお願いします。

問　村企画調整課企画振興係☎49-3115

◆◆◆いきいき健康通信◆◆◆

認知症を正しく理解する

■認知症を理解して、早期発見・早期治療を

歳を重ねて、ものを忘れがちになることと、認知症になることは違います

認知症は脳の病気です。さまざまな原因で脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったりして、生活に支障が出ている状態をいいます。原因によっては治療で良くなったり、進行を遅らせることができる場合もありますので、認知症もほかの病気と同じように、早期発見・早期治療がとても重要です。

■認知症の早期発見の目安

・同じことを何度も言う、問う、する。
・しまい忘れや置き忘れが増え、いつも探し物をしている。
・料理や片付け、計算、運転などのミスが多くなる。
・慣れた道でも迷うことがある。
・「このごろ、様子がおかしい」と周囲の人から言われる。
・外出時、持ち物を何度も確かめる。
・身だしなみを構わなくなる。
・趣味や好きなテレビ番組にも興味を示さなくなる。

■若年性認知症についてご存じですか。

「認知症」というと高齢者の病気と思われがちですが、64歳以下でもかかることがあります。

64歳以下で「認知症」と言われたらどうでしょう。まだ、現役で仕事をしています。子どもも独り立ちしていないかもしれません。

若年性認知症の場合、多くの人が現役で仕事や家事をしており、軽い認知障害であっても支障が出るため、早期発見されやすいと考えられます。それにもかかわらず、診断や治療が遅れてしまうのは、不調であっても認知症と結びつかないためです。認知症とは思わず、我慢したり、そのままにしたりしてしまいます。初期の症状の現れ方などによって、必ずしも最初に専門医を受診するとは限りません。症状に改善が見られないときは、早急に専門医を受診しましょう。

気になることや不安なことがあるときは、地域包括支援センター（☎49−3600）までご相談ください。

（文：地域包括支援センター）

December
12

㊡＝休日当番医　［歴］＝歴史民俗資料館　［公］＝公民館　［図］＝図書館　［保］＝保健センター
［ト］＝農業者トレーニングセンター　［ほ］＝ほっとはうす・さめがわ　［こ］＝こどもセンター

火	水	木	金	土
				12/**1**
4 ◆送迎バス運行日 （西野・西山・富田方面）	**5** ◆送迎バス運行日 （中野・東野方面） ●筋力づくり教室… 10:00 ～ 15:00[保] ●おはなしの森… 15:30 ～／鮫川小	**6** ◆送迎バス運行日 （渡瀬・青生野方面）	**7** ●筋力づくり教室… 10:00 ～ 15:00[保]	**8** ●お遊戯会［こ］
11 ◆送迎バス運行日 （西野・西山・富田方面）	**12** ◆送迎バス運行日 （中野・東野方面） ●筋力づくり教室… 10:00 ～ 15:00[保] ●おはなしの森… 15:30 ～／鮫川小プレハブ	**13** ◆送迎バス運行日 （渡瀬・青生野方面） ●やまゆり保育室［こ］ ●社会学級閉級式… 12:50 ～［公］	**14** ●筋力づくり教室… 10:00 ～ 15:00[保]	**15**
18 ◆送迎バス運行日 （西野・西山・富田方面） ●やまゆり乳児室［こ］	**19** ◆送迎バス運行日 （中野・東野方面） ●日常生活訓練事業 （やまぶきの会）… 10:00～15:00[保] ●おはなしの森… 15:30 ～／鮫川小プレハブ	**20** ◆送迎バス運行日 （渡瀬・青生野方面） ●筋力づくり教室… 10:00 ～ 15:00[保] ●心配ごと相談… 13:00 ～ 15:00[公]	**21** ●幼稚園、各小・中学校 第２学期終業式	**22**
25 ◆送迎バス運行日 （西野・西山・富田方面） ●村県民税などの 納期限	**26** ◆送迎バス運行日 （中野・東野方面）	**27** ◆送迎バス運行日 （渡瀬・青生野方面）	**28** ●役場仕事納め	**29** ●図書館休館日 ●トレセン休館日
1/**1** 元旦 ㊡東舘診療所（矢祭町） ☎46-3165 ●図書館休館日 ●トレセン休館日	**2** ㊡大木医院（棚倉町） ☎33-2424 ●図書館休館日 ●トレセン休館日	**3** ㊡金澤医院（矢祭町） ☎46-2312 ●図書館休館日 ●トレセン休館日	**4** ●役場仕事始め ●消防団出初式	**5**

※行事などの日程は都合により変更になる場合があります。

おくやみ

10月届け出分・敬称略

住所	氏名	月日	年齢
戸草	荒川　ミヨ	9.30	89歳
赤柴	松村　光子	10. 4	77歳
真坂	吉田ミヨ子	10.10	77歳
新宿	湯坐　良政	10.12	64歳
水口	前田ミヨ子	10.17	76歳
大石草	芳賀　清	10.18	77歳
二反田	松本　榮一	10.23	86歳
戸草	三瓶　美好	10.25	85歳
前沼	青戸喜代子	10.25	85歳

人の動き

11/1現在・（　）は前月比

人口	**4,001**人	（－17）
女	**1,994**人	（－10）
男	**2,007**人	（－ 7）
世帯	**1,160**戸	（－ 3）

寄付寄贈

10月受理分・敬称略

■社会福祉事業のために[金員]…荒川市男(戸草) 湯坐徹哉(新宿) 前田勝之(前田) 芳賀博文(大石草) 松本謙一(石川町) 三瓶富士夫(戸草) 青戸敏一(郡山市)

■ひだまり荘に[ゴミ入れ]…水野博和(広畑)

※お誕生・おくやみ・寄付欄への掲載を希望されない方は、届け出の際に申し出てください。

■訂正とおわび

広報さめがわ11月号の2ページ中、関根正男さんの年齢に誤りがありました。正しくは「50歳」です。ここに訂正し、おわび申し上げます。

●編/集/後/記

■今回の取材を通して、「地域」がそこに住む人たちや関わりのある人たちの想いで成り立っていることを実感できました。その人たちの想いが紙面を通して、少しでも皆さんに伝えられていればと思います。■紅葉も終わり、日に日に寒さが増してきました。健康管理に気を付けて、一年を締めくくりたいものですね。（前田）

暮らしのカレンダー

日	月
2 ㊐金澤医院(矢祭町) ☎46-2312 *第1日曜日は環境美化の日*	**3** ●図書館休館日 ●トレセン休館日
9 ㊐東白川中央医院(棚倉町) ☎33-3263	**10** ●図書館休館日 ●トレセン休館日 ●3～4か月児健診・BCG接種・お母さんの口腔健康相談…13:30～／塙厚生病院
16 ㊐おおひら整形外科クリニック(棚倉町) ☎33-9468 ●親子読書教室[歴]	**17** ●図書館休館日 ●トレセン休館日
23 *天皇誕生日* ㊐塙厚生病院(塙町) ☎43-1145	**24** *振替休日* ㊐木村医院(矢祭町) ☎46-3528 ●図書館休館日 ●トレセン休館日
30 ㊐あらまちクリニック(棚倉町) ☎33-8018 ●図書館休館日 ●トレセン休館日	**31** ㊐和田医院(棚倉町) ☎33-2012 ●図書館休館日 ●トレセン休館日

[広報] さめがわ Public Relations SAMEGAWA
12 December 2012
平成 24 年 12 月 1 日発行（毎月 1 日発行）
第 704 号（昭和 27 年 9 月創刊）



Happy Wedding File_04

円谷 政幸さん 恵美さん

赤坂西野字本坂在住／平成 24 年 11 月挙式

●**奥様の出身地はどちらですか？** ･･･ 棚倉町です。
●**２人が知り合ったきっかけは？** ･･･ お互いの知人の紹介で知り合いました。
●**出会ったときのお互いの第一印象は？** ･･･（夫→妻）身長が低くて、小さい人だな。　（妻→夫）おとなしい人だな。
●**結婚の決め手は？** ･･･周りの勧めもありましたが、初めて会ったときに「結婚するのかな」と何となく思いました。将来のイメージも持てましたし。
●**子どもは何人ほしいですか？** ･･･ 男の子と女の子１人ずつほしいです。できれば、１人目が女の子で弟の面倒を見てくれるといいですね。
●**理想の家庭は？** ･･･ いつも笑顔で、楽しい家庭が築ければいいです。

こちら **村長室**

▼過日、一橋大学関満博教授の講演を聞く機会があり、心に残ったことがあります。中国の上海にある千人規模の眼鏡フレーム会社の社訓です。「一、ドイツの品質（世界最高水準）一、中国の価格（世界最安値）一、日本のサービス」。日本は技術がいいとか、品質がいいとか勝手に思っていますが、世界的にはサービスだそうです。▼関教授がある中国人留学生に言われたそうです。「日本人はすごいですね。ハサミを借りると、必ず持ち手をこちらに向けて渡してくれます」と、日本人の心遣いを褒めているというのです。▼私は、世界が尊敬する日本人のサービス、心遣いを誇りに思い、新しい可能性を探していくことで、再び「世界一の技術、品質の日本」となる日がくるのだと思いました。また、この「サービス」の心を私たち職員も大切にし、村づくりにも役立てねばと考えさせられました。

大樂勝弘

発行／福島県鮫川村　編集／鮫川村役場企画調整課
〒 963-8401　福島県東白川郡鮫川村大字赤坂中野字新宿 39 番地 5